

式 辞

桜花爛漫、うららかな春、小鳥のさえずりも心地よく感じます。新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見えませんが、季節は確かに巡ってきます。新生活を迎える人々の希望に満ち溢れた表情を拝見すると、改めて新鮮で前向きな気持ちになります。

本日入学の72名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようこそ飯田西中学校へ、皆さんが本校に仲間入りすることを職員・在校生一同心待ちにしています。どうぞよろしくお願いします。

さて、入学した皆さんは、児童ではなく生徒になりました。生徒とは子どもから成長し、よき社会人となるための大切な準備期間に当ります。よって皆さんは、この学び舎で学力を向上させたり、生徒会活動や運動部活動または吹奏楽・人形劇部で励んだり、地域貢献をしたり大人になるためのマナーなどを身につけます。

今まででも楽しいことや辛いこと、乗り越えてきたことが数多くありました。これから始まる生活も同じですが

これからの方が自分自身の力で解決したり、周りの人を支えたりする場面が増えてきます。

しかし、何もかも自分一人の力でやらなければならぬという訳ではありません。苦しかったら周りの人に助けを求めてください。友だちだったり上級生だったり、先生方や地域の方々その他大勢、周りには必ず助けられる人が存在します。自分一人で抱え込むことはしないで、思いを打ち明けるようにしてください。

次に、マラソンランナーの君原健二さんの言葉を紹介します。東京・メキシコ・ミュンヘンと三大会連続でオリンピックに出場し、メキシコ大会では銀メダルに輝いた方です。しかし、君原さんは小学校では勉強もスポーツもまったく苦手で、何一つ目立たない子どもだったそうです。それが中学に入学後、誘われて入部した陸上部で、走り始めてから人生が変わっていったのです。その君原さんがこのように言っています。

「努力の成果なんて目には見えない。しかし、紙一重の薄さも重なれば本の厚さになる。」

すぐに結果が出ないからといって、焦ったりふて腐れたりしてはいけません。地道に取り組み、経験を重ねていけば、いずれ努力は報われたり、何らかのきっかけで自分の可能性に気づいたりもします。

人生百年時代と言われますが、皆さんにはどのような未来が待っているのでしょうか。百年生きるとすれば、中学校生活はわずか三年間です。しかし、今を生きる皆さんにとっては、未来をも変えていくことができるとても大切な三年間になるのです。そして、環境が変わる今こそ、自分をより良く変えるチャンス到来です。

結びに、保護者の皆様にお祝い申し上げます。本日より、大切なお子様を本校でお預かりします。十二年前に「生まれてきてくれて有り難う」と感動したお子さんがいよいよ思春期真只中の、多感で悩み多き三年間を迎えます。比較をされ否定されることを嫌い、心理的離乳と言われる親離れが進み、自立をするための反抗期も迎えます。個人差がありますので、すでにこの時期に入っているお子さんがいるかもしれません。

大人には誰もこのような時代がありました。この経験から、その時々不安や悩みに共感し、子ども達自身が目の前に立ちただかる壁を乗り越えていけるように背中を支え、押してくださることをお願い致します。

私たち職員は、子ども達にとって何が最善かで判断し全職員が心を寄せ、ベクトルを合わせ、一人一人の生徒の良さを見出し、居心地がよい飯田西中学校を目指してまいります。ご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。式辞と致します。

令和四年四月六日

飯田市立飯田西中学校 校長 宮下寿男